

気仙沼の防潮堤に寄せて

CNCP理事・(特活) NPO 研修・情報センター代表理事 世古 一穂

気仙沼のまちづくりには20年来かかわってきた。市民参加のまちづくりの講座やワークショップをして人材養成をしてきた。

3.11 で気仙沼は甚大な被害を受けた。

高さ15メートルの防潮堤を造る案が国、県からだされた。20年来やってきた人材養成の成果がでたのはこの時だった。



「海と生きる！」をスローガンにしてきた講座の修了生たちは「防潮堤を勉強する会」をたちあげ、全国から、防潮堤や復興まちづくりの専門家を呼んで県や国の行政の人々にも参加してもらい、3カ月で15回にわたる密度の濃い勉強会をおこなった。

反対、賛成で対立するのではなく、終始中立的な態度で会議を進めた。気仙沼の内湾地区では当初、県が示した防潮堤の高さは6.2メートルだったが、勉強会でしっかり勉強した住民たちは、県と話し合いを重ね、2014年3月4.1メートルの防潮堤の上に可動式の1メートルの防潮扉を設置する案が採用された。

内湾地区復興まちづくり協議会会長で、人材養成講座の修了生の菅原昭彦さんは「時間はかかったが、海とどう向き合うか、住民が真剣に考える土台ができた」と話している。



CNCPでも、是非、住民と行政の間にたってコーディネートできる人材養成講座が必要だと思う。特に土木の分野ではコンサルタントがそういう役割を担っているがコンサルタントはお金を出す側、多くは行政の側に立っていて中立的なコーディネーターにはなれていないのが、現実ではないだろうか？

CNCPが、土木やまちづくりのNPOをつなぐNPOならば、中立的なコーディネーター能力が不可欠だ。CNCPで、会員NPO向けのコーディネーター養成事業を実施できるならプロジェクトチームを作って実施していければと思う。